

# コイノニア

208号



福音に生きている



特集

再考  
遣わされた地で

連載

「学生世界のリアル」

対面活動の再構築 小林 悠

「仕事の神学」

キャリアアドバイザー 高智基祈

新主事コラム

FRESHERS 木下 泉

卒業生会2022年・年間テーマ

KGK礎のことばを  
見つめ直す



# 遣わされた地で 福音に生きる

特集

新総主事 吉澤慎也(横浜国立大97年卒)

2022年度のコイノニアのテーマは「KGK礎のことばを見つめ直す」。今回は、今年度から新しく総主事となられた吉澤慎也主事から、「礎のことば」の「遣わされた地で福音に生きる」にフォーカスして語っていただきます。

「そんな本、2度と読みたくありません」  
聖研が終わった後、ある未信者の学生にギデオンの聖書を手渡そうと声をかけると、そう言われた。私がKGK主事になって初めて出会った未信者の学生だった。はつきり言って、その聖研は最悪だったと思う。私はその未信者の学生とやや哲学的な話題で激しい論争を繰り広げ、あげく、かような言葉をぶつけられた。「あー、いったい自分は、何をやってるんだらう…」そう思わざるを得なかった主事1年目の苦い思い出。自分は学生に聖書の福音を伝えるために主事になったのに！  
主事駆け出しのあの頃、私は生意気にも自分には主事の働きがけっこう向いているんじゃないかとひそかに自負していた。しかし実際のところは、先に述べたように、思ったような働きが出来なくて落ち込むこともあった。とにかく仕事の成果を出すことで、自分の存在意義を確かめようとしていたように思う。「自分が役に立っている」と自分で思いたくて、もがいていた。誰の役に？神様の？それとも学生の？もはや、自分のことだけで精一杯だった。しかしKGKという宣教の働きにおける「成果」とは何なのか、正直よく分からなかったし、そういう姿勢で働いていても充分な達成感を得られることはあまりなかった。

新年度が始まっている。新たな職場に遣わされた新卒の卒業生もおられることだろう。職場は変わらないが、仕事の内容が変わったり、役職が変わったり、変化を迎えた人も多くおられる季節だと思ふ。かくいう私も、4月からKGKの総主事になった。KGK主事として迎える21年目は、それまでの20年とは随分と違った働きを求められ、四苦八苦している。

「遣わされる」という言葉の中には、初体験のことにチャレンジしていくことが含まれているように思う。「このわたしがあなたを遣わすのだ。」(出エジプト3:12)と神様から仰せられたモーセは、イスラエルの民の指導者となるべく立ち上がったが、「ああ、わが主よ、どうかほかの人を遣わしてください。」(出エジプト4:13)と弱音を吐いていたことから、モーセが必ずしもリーダーシップに慣れていて自信があったようにも思えない。「わたしがあなたを遣わすすべてのところへ行き、わたしがあなたに命じるすべてのことを語れ。」(エレミヤ1:7)と主に言われたエレミヤもまた「私はまだ若くて、どう語ってよいか分かりません。」(エレミヤ1:6)と戸惑っていたことから、預言者という使命が彼にとつて新しい仕事だったことが窺える。「ここに私がおります。私を遣わしてください。」(イザヤ6:8)と主の召しに応答したイザヤも、それ以前から預言者ではあったが、この時点で新たな使命を与えられた。

私たちはキリスト者として「遣わされた地で福音に生きる」ことを願っている。その遣わされた地とは、往々にして新しい地であり、未体験へのチャレンジでもあるのだ。就職して仕事を始めることも、誰かと結婚することも、子どもが生まれることも、最初は誰もが初めての経験だろう。

やったことがない。これまでの経験が役に立つこともあるし、役に立たないこともある。未経験ゆえに、不安や恐れに襲われることも時にはある。そんな時、神様に頼らざるを得ない。ご自身にますます頼るようにと、祈らされる。いや、ひよっとすると神様は、ご自身にますます頼るようにと、私たちをその新しき地に遣わし、新たな使命を託されるのかもしれない。

神様は、それぞれのライフステージに応じて、私たちに新しい使命や役割を与えてくださる。私たちはそれを神様からの召しとして受け止めつつ、最初は戸惑いを覚えることもあるだろう。何故ならば、私たちはそれを担うのに十分に整えられているわけでも、それを果たす能力が存分に備わっているわけでもないように思えるからだ。むしろ不十分なように感じる。にもかかわらず、神様はそこに遣わされるのだ。私たちが不十分であるのに、敢えて神様はその使命や役割を与えられる。だからきつとそんな私たちは、神様に祈らなければならぬし、頼らなければならぬ。神様はそうやって、私た

ちがご自身と共に生きること学ばせてくださるのかもしれない。つまり神様は、決して自分の力だけでは跳べないハードルを私たちに使命として与えてくださって、神様と共にそれを跳ぶことを学ばせてくださっているのだろう。それらを全部ひっくるめて、「遣わされた地で福音に生きる」ということなのではないだろうか。

冒頭で私自身の歩みを振り返ったが、仕事を始めたばかりの頃に大きな助けになったのは先輩たちの働き方だった。自分のことだけで一杯で近視眼的になっていた私にとって、例えば、今の働きが何年か先にとどのような実を結ぶか、といった先輩の大きな視点は、私の働き方に変革をもたらすきっかけとなった。また同僚や同期との関わりを通して、色々なヒントを与えられたような気がする。それらは当時の私に何か劇的な変化をもたらしたり、瞬時に解決を与えたりするようなことはなかったが、少しずつ少しずつ、私の思考と歩みは変えられていったように思う。きつと神様は、私に対しては、折にかなった助け手をいつも傍に置いてくださり、私が遣わされた地で福音に生きることが出来るように励ましてきてくださったのだ。そしてそれは、総主事として遣わされた今も変わらない。今は以前にも増してたどたどしい歩みの毎日だが、以前にも増して主の憐れみを感じている。

今日も、遣わされた地で福音に生きようとしているあなたには、きつとあなたにふさわしい主の助けと導きがあると信じている。「見よ、わたしは新しいことを行う。今、それが芽生えている。あなたがたは、それを知らないのか。必ず、わたしは荒野に道を、荒地に川を設ける。」(イザヤ43・9)



2000年 主事2年目の頃の写真

※ご意見等ある方は  
kanokgyobog  
@gmail.com  
までご連絡ください。



2022年度  
関東地区KGK卒業生会云会長  
千葉大13年卒 小野 恵太

## 交わりを見つめ直す

遣わされた地で福音に生きておられる皆様の上に、神様からの恵みと平安がありますように。KGKスピリットを共有する皆様と『コイノニア』の紙面を通して交わりを持つことができ、幸いを感謝します。

2022年度関東地区卒業生会では『交わりを見つめ直す』という年間テーマを掲げました。

ティ、使命は、未だ十分に深められていないことも事実ではないでしょうか。かくいう私もその一人であります。

そこで今年度は、現実的に持たれる多様な交わりのみならず、**卒業生会そのものを交わりと捉え、改めてその在り方を皆様と共に考える1年**としたいと願っています。

特に役員会では各イベントの開催に加え、卒業生会ならではのテーマを議論し、コイノニア(本誌)に掲載する予定です。皆様からも忌憚のないご意見を頂戴できると幸いです。相互の分かち合いから汲み取られた卒業生達の生きた証が、学生を力づけ、次世代への霊的財産となると期待しています。

皆様にとって卒業生会とはどのような存在でしょうか。振り返ると、卒業生会は祈りと献金によって主事を立て、学生宣教を支え続けてきました。また、信仰を持って破れ口に立つことを励まし合うために、人格的な交わりの機会を提供し続けてきました。『支援と交わり』の役割を担う会として長年歩んできたその軌跡は、KGKの礎であり、その歴史を確かに形作ってきたと言えるでしょう。しかし、学生を中心としたKGK運動にあって、卒業生会としてのアイデンティ

ティ、使命は、未だ十分に深められていないことも事実ではないでしょうか。かくいう私もその一人であります。

## 恋愛・結婚集会での証



神奈川大14年卒  
新倉 隆太

証の機会を頂き感謝いたします。私は準備委員として企画の段階からこの集会に携わらせて頂きました。

集会のテーマは「どうしたら愛し続けていけるんだろう?」。クリスマスチャンとして歩んでいく上でとても考えさせられる問いです。

私はイエス様の十字架の死と復活によって愛が示され、愛を知っているのですが、私の力では愛を表すことができません。なぜなら自分自身の中にある罪による高慢や恐れ、裁く心などによって正しく愛することができないからです。それゆえ伊藤先生が語られた「神は愛です。でも私たちは愛ではないです。」という本質は本当によく自覚しなくてはならないと感じました。

まず、私たちが神様を愛したのでではなく、神様が私たちを愛して下さったということ。次に、神様の愛の交わりの中に生かされていく中で初めて真実の愛で愛していくことができるということ。だからこそ私たちは神様を求め続け、神様の愛に満たされ、神様を愛し、人を愛してい

く必要があるということ信じ、実行していきたいと思えます。

また、愛である神様と共に歩む時に、私たちが遣わされる様々な場所での人間関係の全てが愛を学ぶ場であり、神様の素晴らしさを体験する場へと変わっていくという話を聞きました。

私は、時々神様を忘れてしまっている時があります。例えば、物事を自己中心的に考えている時や、相手に責める様な言葉を放つたりしている時です。愛が無いなど感じます。

マタイの福音書22章37節の『あなたを心を尽くし、いのちを尽くし、知性を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。』また39節の『あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい』この二つはとても大切な戒めです。私は神様との関係をしっかりと持つことによって、自分自身も相手も愛していきたいです。

神様との交わりを持ち続け、神様の愛を学び、神様の素晴らしさを体験し、証し続ける者になりたいです。

## 「変化」をともに生きる交わり



6月のコイノニアは新卒者の方々が初めて読む号です。ということで、新卒者の方々へ、卒業おめでとうございます。そして、卒業生会へようこそ！

これを読む頃には6月も半ば頃でしょう。新たに遣わされた地で福音に生きる歩みはいかがでしょうか。

新卒者というのは、人生のなかで最も大きな「変化」を生きている者たちと言っても過言ではありません。もちろん、これまでの人生にも、そしてこれからの長い人生のなかでも、大きな変化はあるでしょう。しかし、学生から「職業人」への変化は、人生のなかで、最も大きな変化の一つであり、多くの方々にとって最初に経験する劇的な変化です。

変化というものは、気づきにくいですが、それだけで大きなストレスとなります。さらに、変化のなかで、自分の理想と現実の姿にギャップを感じることも多く、慣れないなかで大きな失敗をしてしまうこともあるでしょう。そのなかで、心が折れ、疲れ果ててしまうこともあるでしょう。

学生時代にKGKスピリットによって築かれた土台は、卒業後の「変化」のなかで試みを受けます。あなたはいかがでしょうか。自分の罪と弱さに絶望しそうになっているでしょうか。職場の人間関係に疲れ果てているでしょうか。周りにクリスチャンがおらず、深い孤独を覚えているでしょうか。あなたは一人ではありません。ぜひ、助けを求めてください。学生時代の友に、主事たちに「祈って欲しい」と連絡を試みてください。そして、卒業生会に参加してみてください。定期的なイベントや職域別祈禱会など様々な集会を行っている卒業生会ですが、その本質は、「変化」を生きる私たちが、祈り、祈られるなかで、何度でも諦めることなく遣わされた地で福音に生きることを、教会を建て上げることを励まし合う交わりなのです。

### 中村 頌

○最近、相手に言えてなかった一言は？  
いつもアイディア泥棒してごめん。(アイディア泥棒…他人のアイディアを我が物顔で喋ること、またそのようにする人物)

○相手を聖書の人物に例えるとき、神様(これNG回答かな)。愛し、問う存在。「お顔を見て、神の御顔をみているようです」(創世記33:10)。妻との関係を通じて、神の顔を見てきた、かも。

○相手と過ごした大切な「時間」は？  
子供が生まれる前に、二人で合宿をしてあれこれ家庭形成について話したこと。

○今だから言える夫婦の危機は？  
割と頻繁に危機です。それでも一緒にいられるのは奇跡。引き合わせた神に感謝(別にいい話風にまとめようとしている訳ではない)。

○相手がいることで「助かっているなあ」と思うことは？  
本質をつく指摘に、自分の浅さに気付く。決して同化されない、一番身近な他者として立ち続けてくれていること。

## 家族のかたち



### 中村 由梨

○最近、相手に言えてなかった一言は？  
家計の精算しよう

○相手を聖書の人物に例えるとき？  
アダム。キッチン窓から見える畑を耕す夫、と手伝う息子たちの姿。そのどかな光景が、楽園そのものの神様に大自然の管理を任されたアダムもこんな感じだったのかな

○相手と過ごした大切な「時間」は？  
ゆったりスケジュールを組んで、たくさん話せたハネムーン。子供たちの陣痛・分娩

○今だから言える夫婦の危機は？  
危機は忘れた頃にやってきます。直近で最大の危機は、二男妊娠中にならざるに済んでいるとき

○相手がいることで「助かっているなあ」と思うことは？  
子供とソリが合わないとき、自分が病気になる時、力仕事、相談したいことがあるとき、日々のブツブツ言っていることが独り言にならずに済んでいるとき

**夫** 中村 頌  
東京大 11年卒  
教会 土浦めぐみ教会  
仕事 高校教員  
家族 娘一人息子三人  
猫三匹妻一人  
趣味 漫画。  
踏み込んだ話。  
好きな食べ物 みかん

**妻** 中村 由梨  
東京大 11年卒  
教会 赤羽教会  
仕事 弁護士  
家族 夫、長女、長男、二男、三男、猫3匹  
趣味 お絵描き、ピアノ、パン焼き、ガーデニング、猫、映画鑑賞  
好きな食べ物 いちじく、枇杷、ライチ、パパイア、バターチキンカレー

# 高智基祈



M. Kouchi

上智大学 2016 年卒  
人材業界のパーソルキャリア株式会社にて勤務。キャリアアドバイザーとして主に学生の就職活動のサポートに従事しつつ、現在は課長職として部下の育成とマネジメントに奮闘中。

Professional

キャリアアドバイザー

Theology of Work

## 仕事の神学

わたしは神から何を任されているのか  
神の世界において何のプロフェッショナルとして召されているのか  
キリスト教の視点でわたしたちの仕事に「神学」するリレー連載



### 高智基祈にとって「キャリアアドバイザー」とは

私は現在、人材系の企業でキャリアアドバイザーとして働いています。職務としては大学生の就職活動の支援をしています。具体的には、大学生とカウンセリングをして、その人の進路の悩みを聞きます。「やりたいことが見つかりません」「私には何が向いていますか?」そんな声を聞きながら一緒にその人なりの強みを見つけ、その人に合う求人を紹介します。私の今受け取っている使命は、人が神様から与えられた人生を喜ぶことの助けになりたいというものです。私が今の会社で働く理由は一人でも多くの人に、働くことの喜びを感じながら働いてほしいと思うからです。聖書でもエデンの園で、神が人間に管理することの喜びを与えられました。イエス様も大工の役目(マルコ 6:3)を持っていましたし、パウロはテント職人としてアキラとプリスキラと共に働き、きっと「良い天幕とは何ぞや」

と語り合ったことでしょう(使徒 18:3)。また、ソロモンの時代、神殿の建設にあたってはたくさんの雇用が生まれ、皆が協力して主のために働きました。

人にはそれぞれ神から与えられた使命があります。ある人は職場で働くこと、ある人は家庭で仕えること、ある人は子育てをすること、ある人は直接献身をすること。各人が神から役割を与えられています。しかし、実際にそれを「喜んでいるか」と聞かれる時に、クリスチャンであるなしに関わらず、なかなかいい返事は返って来ないという現実があります。これはこの世界が抱えている大きな痛みの一つではないでしょうか。私はクリスチャンとして、この労働という分野に神さまの光を灯す器として向き合いたいと思っています。

だからこそ、私は特に働くことのスタートラインに立とうとしている学生に、その人らしさや強みを見つける助

### 労働に光をともし仕事

けをします。そのうえでその人らしさが現れる仕事は何であるかを一緒に考え、アドバイスします。「主がその人に与えられた良いものは何だろうか」と一人一人のために祈り、思いを馳せながらその業務に従事することこそが、私がキリスト者としてここにいる意味だと受け取っています。そういった形で社会と社会のはざまにいる大学生たちが働くことを喜びとするということの助けでありたいと願います。そしてその中で全ての人が自分自身を知り、行く行くは創造者を知って主の元に立ち返る歩みをしてほしい。そんな祈りと関わり方を持って私は今日もここで働きます。



## 『学生の伝道 2022』

キリスト者学生会主事会編、2022年

紹介者

金沢大 09 年卒  
東北地区責任主事  
永井創世

『学生の伝道』が12年ぶりにリニューアルされました。70周年をむかえた2017年に宣明された「礎のことば」を踏まえた大改訂で、歴史を通して受け継がれてきたKGGの価値と本質が詰め込まれた、より読み応えのある『学生の伝道』となっております。想定されている読者は学生ですが、全生涯を通して「遣わされた地で福音に生きる」ことを励ます本書は、卒業生にも是非読んで欲しい一冊です。すべてのセクションがみことばの引用から始まっているのも大きな特徴です。読者は単に学生時代を思い出すだけではなく、神様からのメッセージとして、今現在の生き方を問われます。卒業生会や同期会、教会の交わりなどでの読書会にもお薦めです。ご入用の方はお近くの主事事務局までお問い合わせください。ぜひ今年、この新しい『学生の伝道』を手にとってみてください。





関東地区主事 **小林 悠**

担当ブロック お茶の水ブロック、山梨ブロック、25同期会担当  
所属教会 日本キリスト合同教会板橋教会



**新**年度を迎えた今、学生会では対面での活動が増えている。コロナの感染が拡大し、約2年の間KGKはオンラインでの活動を強いられてきた。学生たちの適応力は素早く優れていて、オンラインであっても交わりを深める術を身に付けてきた。しかし、感染対策をしつつ対面活動ができるようになった今、今度は対面活動を再構築する時期を迎えている。

## 対面活動の再構築

対面での新歓を準備していた時のことである。「僕、1年生の時はコロナで新歓なかったんで、よく分からないですよ。」そう話すのは今年度3年生になる学生だ。今いるKGK学生でコロナ前の対面活動を経験しているのは4年生以上だけだ。今はコロナ後に大学進学した世代がリーダーシップを担うようになってきている。そうなるに直面するチャレンジは、「対面活動の経験が少ない中で」対面活動を準備する必要があるということだ。

4年間で学生のほとんどが入れ替わるKGKにとつて、コロナ禍で2年間対面活動ができなかったことの影響は大きい。これまでの対面活動を通して作り上げられてきた「文化」が一旦壊れてしまったと言えるだろう。例えば、対面活動における交わりの持ち方である。ブロック祈祷会の後にはみんなで誘い合ってご飯を食べに行くこと、初めて来た人がいたら話しかけに行くこと、対面集会でレクが盛り上がるやり方、交わりがしやすいプログラム順序等である。また、より本質的なこととしては、教室や食堂という学内に集まって聖書を開くこと、そのような学内伝道の経験である。オンラインだから交わりを持たなかったわけでも、伝道の機会がなかったわけでもない。しかし、対面での方法や経験は、「失われた」とまで

行かなくても「忘れかけられて」いる。

このような対面活動の文化を取り戻すためには、対面活動を経験している4年生や近い卒業生、主事たちが積極的に継承することが重要だと考えている。主事としては、見守るだけでなく継承を積極的に励ましたい。

今年の夏は2年ぶりに対面での夏キャンプを開催する予定だ。私は夏期学校を担当しているが、2年前の引継資料を頼りに、準備委員たちと試行錯誤している。対面文化が一旦壊れたことは、良くない伝統はやめにして必要なことは新しく取り入れていく、そのような「対面文化の再構築」を大胆に進められるチャンスでもあるだろう。オンラインで得たものを生かしつつ、対面の良さや喜びを取り戻し、福音がより豊かに分かち合われていくようお願いいただきたい。



# FRESHERS



関東地区担当主事 事務宣教局担当主事 **木下 泉**

- ▶ 出身校 東京理科大学 2019年卒
- ▶ 趣味 お笑い鑑賞(特にクセソゴ)、高校野球観戦
- ▶ 学生時代の専攻 経営学部経営学科 統計学ゼミ
- ▶ 性格 細かいことは気にせず前のめり
- ▶ マイブーム 有酸素運動

学生時代に多くの交わりや学びの場を与えて頂いたKGKに、主事として仕えさせて頂くことを大変嬉しく思っております。私は事務宣教局と関東地区での奉仕となるため、それぞれの抱負を述べさせていただきます。

まず事務宣教局での働きについてです。この働きは大学4年生の頃から祈り続けてきたものでした。一見宣教の働きから遠いように感じてしまいますが、KGKが福音を伝えていくために必要不可欠な分野であると考えています。神様が与えてくださった土地、建物、お金と言った資産を正しく管理することも宣教の一つと捉え、諸先輩方に指導頂きながら学んでいきたいと願っています。

2つ目は関東地区の働きについてです。特に、民



主事  
はじめました!

Come on!  
New generation!!

間企業で営業として勤務した経験を活かし、民間企業や公務員などで働くことを祈っている学生のサポートができればと考えています。「職場での仕事を宣教と捉えて取り組んでいく」。言葉にすることは簡単ですが、求められる責任、数字へのコミット、社内での人間関係などから大きな使命に気が回らず、日々の責任を果たすことにいっぱいいっぱいになってしまうことがあるのではないかと思います。そのような中でもKGKスピリットを携え、遣わされた場所で福音に立ち続けることができるよう、日々の交わりを通して励ましていけたらと願っています。

働きは多岐にわたりますが、どの働きも全力で仕えて参りますのでお祈り頂けると幸いです。